



日進中だより

学ぶ生徒 誠実な生徒 鍛える生徒

令和7年 7月 1日

第 4 号

さいたま市立日進中学校

TEL 048-663-1251

FAX 048-663-0834

「 涙 」

校 長 長岡有実子

さいたま市学校総合体育大会は3年生を中心に、部によっては2年生、1年生も出場し、全員が「日進プライド」を胸に戦い抜いた。試合後は歓喜の涙、悲しみの涙、後悔の涙、様々な涙があった。これは頑張った証であり、生徒は大会を通して大きな経験を得ることができた。日進中の生徒は、大会を運営してくださる競技役員の先生方にも挨拶や態度で感謝の気持ちを伝えられる等、競技以外でのファインプレーも目立った。保護者の方々、仲間への感謝の言葉もあった。

人は、自分が懸命に打ち込んでいることに対して思うように結果が出ない時、努力しても報われない時、時として泣きたくなる。そういう気持ちになれるのは、真剣に打ち込んできたことや、努力してきたことがあるからである。

3年生。試合で負けてもこれで終わりではない。これまでありがとう。友情、絆、信頼、他にもたくさんあるが、部活動を通して得たものを胸に秘めて、また次のステージに向かって取り組んでほしい。そして美しい涙を流してほしい。県大会に進む部は残された時間を大切に、全力で取り組んでほしい。

6月の「いじめ撲滅強化月間」では、誰もが安心して学校生活を送ることができるように各クラスで学級委員を中心に活発な話し合いを行った。

いじめは、相手の心に深い傷をつけ、相手の未来を閉ざしてしまうけっして許されない行為である。その形態は、悪口を言ったり、人を馬鹿にしたり、からかったり、物を壊したり、暴力をふるったり、様々ではあるがその行為が、どれだけ相手の心を傷つけるかを考えてほしい。言葉は時として、鋭利な刃物にもなる。また、仲間におごらせたりするのもいけない。なぜなら成人するまでは、こづかいも含め、それは「自分のお金」ではなく、「親から預かった自分自身のためのお金」だからだ。自分の大切なものを購入するために使うのであり、仲間におごるために「もらった」のではない。「いじめ」という言葉がきつくなるが、意識の根底にある「意地悪」も同様である。日進中のすべての子どもたちが悲しい涙を流すことがない、明るい毎日を送ってほしい。

【心が元気になる4つの言葉】

～令和5年8月4日 さいたま市子ども会議にて採択～

1 大丈夫 大丈夫？

元気がない仲間がいたら声をかけてあげよう

2 自分を信じて

あと少しの勇気をもてない仲間の背中を押してあげよう

3 また明日

毎日良いことも、時には辛いこともあるけど、お互いに

「また明日」と声をかけながら頑張っていこう

4 ちょつとずつでいいよ

悩みを抱えている仲間に声をかけてあげよう

希望の登校 笑顔の活動 満足の下校